

平成 24 年度 滋賀県がん診療連携協議会・第 2 回診療支援部会 議事概要

日 時	平成 24 年 10 月 4 日 (木) 18 時 00 分～19 時 40 分
場 所	滋賀医科大学医学部附属病院 第 4 会議室
出席者	滋賀医科大学医学部附属病院 (部会長: 藤山病院長補佐・消化器内科診療科長)、滋賀県立成人病センター (副部会長: 鈴木副院長、谷本主任主事)、公立甲賀病院 (井田顧問)、彦根市立病院 (來住内科部長)、市立長浜病院 (伏木放射線科責任部長)、大津市民病院 (青木副院長)、草津総合病院 (中洲脳腫瘍治療科部長)、済生会滋賀県病院 (重松消化器内科診療部長)、近江八幡市立総合医療センター (宮下副院長)、長浜赤十字病院 (駒井消化器科部長)、国立病院機構滋賀病院 (来見副院長(代理・居松係長))、滋賀県歯科医師会 (堀口公衆衛生部委員長)、滋賀県薬剤師会 (小島理事)、滋賀県看護協会 (今堀滋賀医大病院看護師長)、滋賀県放射線技師会 (高橋常務理事)、滋賀県病院薬剤師会 (寺田会長)、滋賀県歯科衛生士会 (山本歯科衛生士)、滋賀県健康福祉部 (角野次長(代理・奥井副主幹))、 【準部会員】滋賀県放射線治療連絡協議会 (芥田会長)、滋賀医科大学医学部附属病院 (醍醐腫瘍センター長) 【部会事務局】滋賀医科大学医療サービス課 (奥村補佐、中森専門職員)
欠席者	大津赤十字病院 (副部会長: 土井副院長)、滋賀県医師会 (中野草津栗東医師会副会長)

1. 報 告

今回から、部会員として草津総合病院脳腫瘍治療科部長 中洲 敏先生に、準部会員として滋賀県放射線治療連絡協議会長 芥田敬三先生(大津赤十字病院第一放射線科部長)に加わっていただいたことの報告、挨拶があった。

また、名簿のアスタリスクは、メーリングリスト登録メンバーであることの説明があった。

2. 議 題

(1) 先進的(高度)な医療について

継続審議の先進的(高度)な医療に関する情報提供について、部会員のご意見を踏まえて、次の基準で調整した一覧表 24.10.4 現在を提示した。

- ・特掲診療料の施設基準が必要なもの
- ・治療に関わるもの(検査は除く)
- ・それ以外に積極的に取り組んでいる治療
- ・骨髄移植推進財団の認定施設

ホームページのイメージとして、滋賀県地図上に、各拠点病院、支援病院を表示して、各病院をクリックすると医療情報が展開していくことを考えた資料を素案として提示し、議論した。

部会員から次の意見があった。

- ・視覚に訴えて、クリックで次に進めて情報が見えてくるのは良い方法と思う。
- ・5 大がんとして別途作っていく必要があるのではと考える。
- ・表にあげられていないものはどう取り扱っていくか。
- ・公開することになれば、間髪いれずに最新情報に修正していくシステムが必要
- ・費用等についても分かるような表示が必要かと考える。

以上より、更に調整して今年度中を目途に進めていくこととした。

(2) 各団体等の取組状況について

部会各団体等の本年度の取組について次のとおり報告があった。

○滋賀県病院薬剤師会

先週（9月29日（土））にがん専門薬剤師育成セミナーを開催し、ディスカッションした（約40名参加）。ドクター3名に出席いただき均てん化が図れたと考える。

○滋賀県看護協会

・平成23年度の結果をもとに、がん看護に関する情報交換できるシステムの構築をめざし検討中である。

・がん関連の研修会の開催（がん看護に関するトピックをテーマとして企画）

部会員から次の意見等があった。

・診療を支援できる看護師が求められているが、専門看護師になるには、長期にわたり現業を離れないと取得できないので高いハードルになっている。

・県内で養成システムはできないのか。簡単に取得できる工夫はできないのか。

（日本看護協会からは、簡単に取得できる方向の話はない。認定制度開始以降、看護系大学や看護協会等で認定コースをもつところが出てきており、資格は取りやすくなってきている。また、認定看護師にこだわらなければ、研修も多く開催されており、スキルアップはしやすい。研修調整部会では、がん看護研修を企画して、質の高い看護師育成に努めている。）

・県立大学で感染看護師のコースがあり、人口当たりの看護師は確保できた。次はがんに関するコースを考えていただきたい。

・一生懸命頑張っても研鑽を積んでも、院内のポジションを保証されておらず、異なる場所に配属されることもあるので、改善も必要である。

○滋賀県放射線技師会

・放射線治療の研修、県内施設で新規に機種導入された場合の研修等を進めるよう対応していきたい。

・ホームページ、フェイスブックを用いて情報発信を進めている。

○滋賀県薬剤師会

・薬局における医療材料の在庫状況等を共有できるシステムの構築を検討している。

・在宅ホスピス薬剤師のフォローアップ研修会を開催し、事例報告会を行った。

・無菌調剤の研修会を年4回予定しており、2回終了した。1回あたり10名程度であるが、充実した内容になっている。

・ホームページの更新について、業者を選定している状況である。

部会員から次の要望、質問があった。

・クリティカルパスにより調剤した場合に地域で1か所でも説明できる方向で検討いただきたい。

・クリーンベンチのある薬局は少ないと聞いているが、今後の方向性はどうか（設備が整っていることが望ましいが、投資、規模から困難な現状ではある。一部地域で簡易型を進める方向を考えている。）

・県で、在宅ホスピス薬剤師は重要と考えられてきているが、現時点でどの程度の動きがあるか（現在、まだ進んではない。）

○滋賀県歯科医師会

・会として連携しての動きは今のところないが、口腔ケア研修などの企画を進めてい

る。

○滋賀県歯科衛生士会

- ・拠点病院からの研修案内等をメンバーに広報誌、ホームページで周知している。
- ・今後、研修会、講習会を企画している。

部会員から次の要望があった。

- ・化学療法薬の副作用で、顎骨壊死をきたすリスクについて、自院に口腔外科がないので一般の歯科に訊くことがあるが、専門知識を持たれていないので、講習会等を実施していただきたい。（学会では関心を寄せているテーマである。病院勤務の衛生士間では研修会を開いているが、一般医のもとではまだ浸透していない。）

- ・早い段階からがん治療に関わっていただきたいと考える。
- ・今後は在宅に進んでいくので、一般の歯科医師、衛生士の役割が重要になってくるので、協業出来ればと考える。

○滋賀県放射線治療連絡協議会

- ・年2回の勉強会を実施している。ほとんどの施設に参加いただき情報共有している。
- ・新規装置導入、非常勤のみの施設等の支援を考えていきたい。

○滋賀医科大学としての取組について

- ・教育的な立場での人材育成として、5年間のがんプロフェッショナル養成プランが採択されて、がん関係医師の養成を進めてきた。

今年度から、新たに5年間の養成基盤推進プランが採択され、がん医療人の養成プランとして、医師、看護師、薬剤師、検査技師等が専門的な知識を身につけられて資格を取っていただけることを考えており、今年度第1期生が数名入学している。がん専門薬剤師養成講座では、既に講演会等を実施した。

- ・また、地域医療再生計画では、滋賀県におけるがん医療人養成の各種の講演会、研修会を予定している。

部会員から次の要望等があった。

- ・出来ていないところこそ何とかしていかなければならないので、医大と成人病センターがリンクしていただき、またこの部会として何か考えていただきたい。
- ・成人病センターでは、人材育成センターを設置して、実臨床を実践する人材を育成していくことを目指している。

(3) 滋賀県がん対策推進計画〔素案〕について

県健康福祉部健康長寿課 奥井副主幹から、素案（第一稿）に基づき次の概要説明があった。

- ① 計画のあらまし
- ② 全体目標
- ③ 重点的に取り組むべき課題
- ④ 分野別施策および目標

当部会で関係の深い、「3 がん医療」及び「4 医療機関の整備等」について、従来の取組の説明、新たに追加の取組の説明、方向性の説明があり、追加の意見、懸案としているところについての意見、それぞれの役割としての意見を前向きに出していただきたいとの依頼があった。なお、目標と時期については、5年間で行きつくところについての意見をいただきたいとされた。

- ⑤ タイムテーブル

- ・10月17日の企画運営委員会、10月25日のがん診療連携協議会で集約することになる。
- ・部会としての意見は、10月11日締め切りとして依頼文をメールで早急に送らせていただく。(部会員から、医師会等関連諸団体にも意見を出してもらっていたきたいとの意見があった。)

(4) 当部会の次回開催予定を次のとおりとした。

第3回診療支援部会 平成25年2月

○配布資料

診療支援部会 部会員名簿

(資料1) 先進的(高度)な医療について

〃 ホームページイメージ図

(資料2) 滋賀県がん対策推進計画〔素案〕